


クラス	総合演習 101	担当教員	岡本 眞理子
	テーマ	『20歳のときに知っておきたかったこと』から創造力について学ぶ	
	著書・論文 研究課題等	(共著) (著書) <i>Grassroots Social Security in Asia</i> , 2011, (Chapter 3,7 分担) Routledge. 『マイクロファイナンスへの JICA の支援事例分析』 国際協力機構 2004、 『マイクロファイナンス読本』 明石書店,2000 年 (論文) 「都市貧困問題に立ち向かうマイクロファイナンス」 『都市問題』 第 99 巻 5 号 2008 年、 など、 貧困とマイクロファイナンス関係	

ゼミナール概要

キーワード： 主体的に生きる、創造力、問題解決力、プレゼンテーション力、

日本の社会では、今まで暗黙の前提になっていた「生涯雇用」はおろか、高校や大学を出ればどこかに就職できるということが崩れてしまいました。そして、大量の引きこもりや、親の年金をあてにして親のミイラ化を放置するといった、20年前には想像できなかった問題が生まれてきています。国際社会でもいっこうに紛争や貧困がなくなりそうにありません。そのような中で、二つのことが重要になっています。一つは、主体的に生きる、ということ。もう一つは、限られた資源・環境を活用して問題を解決する能力です。そこから画期的な政策や事業が生まれてきます。国際協力の世界においても、それは同じです。

そのようなことを考えている時に、一冊の本に出会いました。それが、テーマのタイトルにも入れた『20歳のときに知っておきたかったこと』(ティナ・シーリング著)です。これは、スタンフォード大学の経営学の教員が自分のクラスで実践した演習課題とその諸結果を紹介したものです。そこには、さまざまな「無理難題」ともいえる課題に対して、学生達がこれまた「珍案」と創意工夫で見事にクリアしていった多くの事例があり、そのカギとなったのは何か、ということが分析されています。後半では、本人が今日に至った経緯とその過程で見出した教訓が述べられています。そこには「大人になっていく」とはどういうことなのかを示されており、それがタイトルに反映されています。就職力の半分くらいは「オトナ度」だと言われているので、その点もしっかり学んでもらいたいと思った次第です。

しかし、この本は、図式も箇条書きもなく、まるで講演記録をテープに起こしたような記述になっていて、字面を見ているだけでは重要なことを読み過ごしてしまいます。

そこで、ゼミでは、このテキストを次のように使っていこうと思います。

<前期>

- 1) 読んだことの内容をまとめて箇条書に整理し、何がポイントかを明らかにした報告書を作成する。
- 2) それを、テキストには全くない図などを用いて、効果的にプレゼンテーションする。
- 3) 報告内容に関連する質疑・議論を行い、質問力、ディベート力を養う。
- 4) 学生たち自身がチームを形成して、テキストに登場するものと類似の課題を考え、戦略をたてて実験してみる。
- 5) その過程と結果を報告し、全員で検討、議論する。

<後期> テキストを離れて、現実の問題をとりあげたプロジェクトを企画・実行する。

2012年度は、2011年度の学生が行ったアンケート調査を基に「献血率アップ」作戦を実施、
 2013年度は、東北大震災被災地に学ぶ1泊4日弾丸ツアー+ボランティア
 2014年度は学生達で現在検討中

また、時々的重要トピックをとりあげ、ディベートをする。

(2011年度は、「原発維持かストップか」、2012年は「大津の中学生の自殺をめぐって」)

担当教員からのメッセージ

皆さんには「オトナ」になっていただくための試練の場を提供いたします(指をポキポキ鳴らしてお待ちしております)